

## 九 講演講習の始めごろ

大正四年頃と思います。郷里長崎に錢座小学校という学校がありました。その学校の校長先生は宮崎という先生で、姉の友だちのご主人でした。この先生は私がまだ小さい時、川に魚取りにいつて遊んでいるのを橋の上からよく見ていた人でした。先生から学校の職員に速記の話をしてもらいたいといわれ、行って講演したことがあります。私がくるつと回つて黒板に向かう動作が重味がない、もつとゆつくり回りなさいと、先生から注意していただいたことを覚えています。まだ二十歳位のときでした。姉の友だちのご主人というので、格別ご親切にいただいたものです。

私が初めて公の講習会を開いたのは大正五年頃、長崎県立長崎図書館主催でした。ある日、私が図書館に行つて受講者に渡す印刷物を謄写版で刷つていたら人が来て私に対して、「速記の先生はどこにおられるか」といつて尋ねるのです。私がまだ二十歳位の若者でしたので、私が速記の先生などとは誰も思わないのです。坊ちゃん先生だったのです。

そのときの講習会には、長崎の三菱造船所の技師をしておられた武田 毅という人などもおられました。その当時の三菱造船所といえは大したものでした。その技師をしておられた立派な人を始め、三十人ぐ